

その中で市内の公共施設や事業所などにおいて、熱及び電力の需要やそのパターンを調査し、天然ガスを燃料としたコジェネレーションシステムの導入可能性を探りました。

同時に、コジェネレーションシステムにとどまらず、さらに効率的なシステムの導入や、太陽光エネルギーなどさまざまなエネルギー源の確保などの手法を組み合わせたシナリオを描くこと、またそれを誰がどのように進めるかも検討し、体制をつくっていくことも必要と考え、検討を行いました。

『福生市地域新エネルギー詳細ビジョン』は、これらを含めた総合的な計画と位置づけることができます。

(4) チャレンジしよう、今の地球を未来に

化石資源への依存から脱却し、地球温暖化を防ぐことは、“まだ間に合う”と私たちは考えています。しかし、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の統合報告書（2001<平成13>年）では、今後100年程度の間にはCO₂排出量をほとんどゼロに近いほど削減できたとしても、大気中のCO₂濃度が一定の平衡状態になるには、100～300年程度の長い時間が必要とされています。さらに、気温が安定化するには、数世紀がかかり、海水温が上昇すると海水の熱膨張により、海面は数世紀～千年の間、上昇を続けると考えられています。

このようにCO₂濃度が安定化後も地球全体として高温状態が続き、グリーンランド周辺の温度上昇が限界を超えると、氷床が融解し、IPCC第3次評価書（2001<平成13>年）によれば、数千年の間に海面が5～7mも上昇すると予測されています。*

20世紀を生きた私たちは、未来の子どもたちに大きな「負の遺産」を残そうとしています。地球温暖化の影響はすでに現れ始めているのです。一人ひとりの市民が、市内の事業者が、そして行政が、それぞれのできるところで努力する、また、市民と事業者と行政が手を組んで協働することが大切です。

以上見てきたように、本『福生市地域新エネルギー詳細ビジョン』では、2030（平成42）年の目標数値に向けたみちすじを検討しました。ここには、一人ひとりの市民、事業者、行政がそれぞれの立場から行うこと、協働して行わなければならないことなどが示されています。そのため、このビジョンは福生市の地球温暖化対策地域推進計画に引きつがれるものです。

私たちは、今、地球温暖化を考え、具体的に行動する時です。それは人類が今だ経験したことのない挑戦です。深刻になる必要はありません。でも、眼をそらしてはいけません。私たちが知恵を出し合い、創意工夫を積み重ねて、福生市からチャレンジしようではありませんか。

そして福生から「チャレンジ！地球温暖化防止」を全国に発信していきましょう。今の地球を健全なかたちで未来に引き継ぐために。

* 丸山康樹「Overshoot シナリオと環境変化のヒステリシス」『環境研究』2005 No.138